



桑の実の酒

阿野 康子
(山口)

「茶畑を見においでませ」お誘ひを受けしは五年まへの春の日

軽トラックに迎へたまはり乗りこめば窓にまぶしき五月のひかり
日に照りて茶畑の丘のみどり濃し九十翁とわれは巡りき

風とほる木下にひらく柏もち白いろ草いろ包むイギの葉

茶畑のデートはどうだつた？と囁すかの日の夫と夢にまたあふ

わが夫の亡きを悼みてくださりぬ九十五歳の不安もあらむに

君の死後百日過ぎぬぼつぼつとアミガサユリのさみどり芽吹く

梅の枝に干したる傘の半球にこぼれて溜まるしろき花びら

ものの芽を濡らしふる雨たまかぎるゆふべ寒気はやはらぎてをり

春ちかき厨に酔へりブランデーに漬けし桑の実ひとつぶ食べて

ロケットのテレビニュースを見る日ぐれ種子島へと拍手を送る

吊り橋を支へる脚の片方が墓標のやうに立つ壇ノ浦

対岸の和布刈神社に散骨を望みし夫の遺志は果たさむ

和布刈よりわが街唐戸の魚市場みえて観光バス並びをり

海中の波の音せぬトンネルを歩みゆきつつ県境線踏む

このごろの私

わが家の塗装工事にやってきた左官女子。初め驚いたがポニテールをゆらしながら高い足場を移る姿がカッコいい。彼女にエールを送りつつ逆にこちらが〈活〉を入れられている。



雑歌それぞれ

小山 孝治

(新潟)

このごろの私
ユーチューブ作りに取り組んで
います。十チャンネル開局
しています。その一つに「短
歌和歌チャンネル」がありま
す。トップページにコスモス
の写真を貼つてあります。是
非ご覧下さい。

AIに短歌作らせてみたけれどパクリの雰囲気漂ひてをり

AIに作らせし短歌修正しわが歌とする者もゐるらむ

〇〇氏の如き歌をぞAIに命じて作れる時代は直ぐそこ

ユーチューブにて〈短歌和歌チャンネル〉やつてをり登録数のなかなか増えず

ユーチューブにて〈男の料理〉始めたり何を作るか毎日考へ

お役所の規制がこの頃強くなりなかなかドローン飛ばせずをりぬ

「この意味が理解できる者手を挙げよ」分かつてゐるけど若きに任す

熱力学第三法則発動し猫はニャアニャア屋根で啼きゐる

わたくしは妻を愛してゐるけれど心底本当なのか分からず

豆撒きの終はりし後に暗闇より新しき鬼やつて来たりぬ

絶え間なく雪降る下にすやすやと花の時計は眠りてをりぬ

満員の電車の妊婦に席譲る吾は元氣な老人なりぬ

今年もまた暗き納屋にてお雛様仕舞はれたまま捨てられぬまま

春一番二番三番次々に吹いてぼかぼか陽気となりぬ

早春の新潟駅にて別れたる曲学阿世の友は逝きたり